

## 平成30年度 研修計画

本道漁業の振興及び漁村の活性化を担う漁業就業者を育成するため、平成30年度の研修を次により実施する。

### I 総合研修

#### 1. 研修の目的

漁業後継者や新たに漁業を志す者に対し、漁業活動に必要な知識及び技術を修得させ、漁業の振興及び漁村の活性化を担う漁業就業者を育成する。

#### 2. 研修の実施方針

研修は、講義・実技・実習・講習を複合的に組み合わせた形態で、次のことを目標に実施する。

- (1) 漁業に関わる基礎的な知識と技術を修得させる。
- (2) 資源管理や栽培漁業等の取り組みの重要性を認識させ、つくり育てる漁業の知識と技術を修得させる。
- (3) 経営感覚を養い、経営改善等の視野を広めさせるとともに、就業に必要な資格を取得させる。

#### 3. 研修の科目及び課程

研修の科目は、総合研修課程については別紙1-1に掲げる項目とし、漁業者入門研修課程については別紙1-2に掲げる項目として、科目すべてを総括したものを研修課程とする。

## Ⅱ つくり育てる漁業技術研修

### 1. 研修の目的

漁業就業者に対し資源管理や栽培漁業等に関する知識及び技術を修得させるとともに、漁村における指導的役割を果たそうとする者に対し指導に必要な知識及び技術を修得させる。

### 2. 研修の実施方針

研修は、つくり育てる漁業の推進、漁村地域の活性化や漁業に関わる組織の活動、漁村において指導的役割を果たす者が必要とする知識・技術等を修得することを目標に、次により実施する。

なお、実施については、他の研修日程との調整を図りながら要望に応じて随時開催する。

- (1) つくり育てる漁業の推進に必要な資源管理、栽培漁業及び漁業経営等に関わる専門的又は最新の知識及び技術の修得
- (2) 漁村において指導的役割を果たすために必要な知識及び技術の修得
- (3) 漁村地域の活性化や漁業に関わる取り組み組織(漁業士・青年部・女性部・漁業部会等)の活動などの助長に必要な知識及び技術の修得

### 3. 主な研修内容

- ・資源管理型漁業に関する情報と取り組みなど。
- ・栽培漁業に関する情報と取り組み、潜水技術講習など。
- ・流通、加工、金融、経営改善等に関する情報と取り組みなど。
- ・社会経済、水産業の情勢、漁村の活性化、経営改善に関する情報と取り組み。
- ・組織活動、漁村地域活動及び活性化に関わる情報と取り組みなど。
- ・海洋環境に関する情報及び取り組みなど。

### Ⅲ 漁業就業促進研修

#### 1. 研修の目的

漁業就業者に対し、経営改善等を図るために必要な知識及び技術を修得させる。

#### 2. 研修の実施方針

経営改善等に必要な資格取得のための知識及び技術の修得を目標に、資格取得講習を実施する。

なお、実施日程等については、募集要領により関係機関に通知する。

#### 3. 研修の種類及び内容

研修の種類及び内容は、次のとおりとする。

研 修 の 種 類		主 な 内 容
資 格 取 得	一級小型船舶操縦士 (第1種及び第2種) ※ 第2種は、乗船履歴を有し、その 履歴が認められた者)	総トン数20トン未満の漁船の 操縦についての知識と技術に関 する講習及び試験(第2種は、 実技に関する講習と試験は免除)
	第二級海上特殊無線技士	漁業無線及びレーダーの操作に ついての知識と技術に関する 講習及び試験
	潜水士(学科のみ)	潜水知識に関する講習

平成30年度 総合研修科目別計画一覧表

科目	区分	目標	研修科目	目的	手法	H30計画	
必修科目	水産関係法規 ( 3.0 時間)	漁業に関わる法令と制度に関する基礎的知識を理解する	漁業制度	漁業に関わる規則・規制を理解する	講義(漁業制度)	3.0	
	水産生物 ( 12.0 時間)	水産生物の特性や生態について理解し、それらを漁業に生かせる知識を習得する	水産生物概論 水産生物生態	水産生物の種類と漁業とのかかわりを理解する 北海道の主要水産生物の生態を知る	講義(水産生物概論) 講義(魚類・水産動物・海藻類)	3.0 9.0	
	海洋環境 ( 13.5 時間)	海洋、気象、環境問題の基礎的知識を理解し、海洋汚染防止や環境保全の意識を高める	海洋概論 海洋気象 森川海	海洋の仕組みや環境について理解する 海洋気象についての知識を習得する 海と森や川との関わりを理解する	講義(海洋概論) 講義・見学(海洋気象) 講義(森川海)・見学	1.5 6.0 6.0	
	栽培漁業 ( 18.0 時間)	栽培漁業の目的及び知識、手法を学習し、水産資源の積極的な増大と継続的な生産を図る意義を理解する	ウニ ホタテ サケ・マス  サケマス以外の魚類 コンブ	種苗生産から放流または養殖までの一連の知識と手法を学び、資源の維持増大の意義を理解する	講義(ウニ漁業の現状) 講義(ホタテガイ漁業の現状)・実習 講義(サケ・マスの生態と増殖) 実技(年齢査定・加工) 講義(栽培魚種の現状他) 講義(コンブ漁業の現状)・見学	1.5 3.0 3.0 1.5 3.0 6.0	
	資源管理 ( 6.0 時間)	水産資源の有限性を認識し、管理型漁業の意義と重要性について理解する	資源管理概論 資源管理各論	水産資源の現状から管理の重要性を知る 資源の維持管理について意識の高揚を図り、管理型漁業の必要性を認識する	講義(資源管理概論)・見学 講義(各論)	3.0 3.0	
	水産加工 ( 24.0 時間)	水産加工と食品衛生管理の知識・技術について、基礎的な事項を理解・習得する	簡易加工	水産物の処理、加工、食品衛生管理についての知識を得る	講義・実習(加工の基礎Ⅰ) 実習(加工の基礎Ⅱ)	18.0 6.0	
	漁業経営 ( 16.5 時間)	漁業経営や水産物の流通、漁業生産の基盤となる漁協組織について、基礎的知識を理解・習得し、これからの漁業にとって経営感覚を持つことの大切さを理解する	漁業経営  市場・流通	パソコン技術を取り入れながら、経営感覚、付加価値向上の重要性を認識するとともに漁業を取り巻く現状を認識させこれからの漁業経営について考えさせる  水産物の流通経路や価格形成を理解する	講義(漁業経営・営漁指導) 講義・実習(販促活動) 講義(組合概要) 講義(漁業共済) 講義(信用事業) 講義・見学(市場)	6.0 3.0 1.5 1.5 1.5 3.0	
	漁業技術 ( 172.5 時間)	漁業の実践的な知識と技術を理解・習得する	結索 漁具・漁法  沖実習  潜水実技	漁業で使用する結索技術を習得する 漁業資材や漁具の種類、各漁法の知識や刺網の製作、修理などを実践的に習得するとともに、漁具の管理技術を習得する  実践的な漁労技術を修得する  潜水技術の訓練	実習(ロープワーク・サツマ) 講義(漁具・漁法) 講義・実習(定置網の構造) 実習(網製作・修理) 実習(包丁磨ぎ) 実習(刺網・ツブ籠・タコ箱、底建網) 実習(出入港準備) 実習(操船) 実習(漁獲物鮮度保持) 実習(プールの潜水)	47.5 1.5 1.5 78.0 2.0 19.0 2.0 6.0 3.0 12.0	
	漁船機器 ( 9.0 時間)	漁船の機器、機関の操作・維持管理に必要な知識・技術を理解・習得する	漁船機器 漁船機関	レーダー、GPS、魚探の原理や操作法を習得する エンジン機関の整備点検、操作法を習得する	講義(原理説明・実機操作) 講義・実習(点検整備・操作)	3.0 6.0	
	海上安全 ( 3.0 時間)	安全な海上作業の遂行と緊急時の対応技術を理解・習得する	海難防止	海難防止のための知識と技術を習得する	講義・実習(海難防止Ⅰ)	3.0	
	水産一般 ( 12.0 時間)	漁業者及び社会人としての自覚形成と水産学の一般知識を習得する	漁業講話 青年部活動 普及活動事例 体験乗船 施設見学	漁業者の心構えや実践活動を通じた体験や考え方などについて学ぶ 具体的な事例について知る 大型漁船の機関や操舵について乗船体験を通じて学ぶ 水産業やその関連施設を見学し、実態を知る	講義(Ⅰ、Ⅱ) 講義 講義 実習船見学 見学(ヤマハマリン北海道製造)	3.0 1.5 1.5 3.0 3.0	
	漁業研修 ( 30.0 時間)	漁業者及び社会人としての自覚の形成を促す	体験研修	漁業の体験とともに地域との交流を図る	実習	30.0	
	教養科目	自家課題研究 ( 15.0 時間)	自家漁業を調べ、研究し、知識をさらに深める	自家課題研究	自家漁業について研究し、理解を深める	個人学習	15.0
		自家研修報告 ( 3.0 時間)	自分の体験や考えをまとめ、人に伝える能力を養う	報告会	自家漁業や地域漁業についてまとめ発表する	報告会	3.0
		社会教育 ( 24.0 時間)	社会人としての心構えや社会道徳、集団生活における規律等を身に付ける	奉仕活動 グループ活動	地域との関わりや奉仕の精神を学ぶ 選択制科目により、各自の技術、知識の向上を図る	清掃活動、河川清掃 選択制による活動	3.0 21.0
		健康管理 ( 1.5 時間)	健康増進と運動を通じたコミュニケーションを図る	健康管理	寮生活での健康管理上の注意点を学ぶ	講義	1.5
		海友祭 ( 22.0 時間)	研修成果の発表をとおして漁業者としての就業意欲の向上を図る	海友祭	付加価値向上の必要性と、経営感覚を身につけるとともに、地域住民との交流を図り漁業研修所の理解を深める	実習	22.0
	資格取得科目	資格取得 ( 258.0 時間)	漁業経営に必要な資格を取得するための知識と技術を理解・習得する	丙種・乙種第四類危険物取扱者	準備・講習・試験	42.0	
				潜水士	準備・講習・試験	54.0	
				一級小型船舶操縦士	準備・講習・実技・試験	63.0	
第二級海上特殊無線技士				講習・試験	18.0		
玉掛け				講習・実技・試験	18.0		
小型移動式クレーン				講習・実技・試験	18.0		
フォークリフト				講習・実技・試験	30.0		
食品衛生責任者				講習	6.0		
揚貨装置	講習・実技	9.0					
その他 ( 29.0 時間)		清掃・防災・庁舎管理 入所・修了式 アルバム作成 オリエンテーション 所長講話	講話	29.0			
合計	計 672.0 時間						

※ 区分欄( )は、研修時間をあらわす。

## 平成30年度総合研修(基礎コース(漁業者入門研修課程))科目別計画一覧表

区 分	目 標	研修科目	目 的	手 法
漁業技術 ( 22.5 時間)	漁業の実践的な知識と技術を理解・習得する。	ロープワーク  アバリの使い方、網修理  漁具・漁法  乗船実習  調理実習	ロープワークの初歩の技術を習得させ、漁業者としての必要最小限の結索技術を学ぶ。  を学ぶ。  漁具や漁法の種類を学ぶとともに、実際の使用方法や納め方を学ぶ。  底建網の網起こし、網揚げの実際と船上でのロープワークを学ぶ。  漁師の必需品であるマキリの使い方、研ぎ方を学ぶとともに、漁獲した魚を使って、魚のおろし方を学ぶ。	実習(ロープワーク・サツマ)  実習(網修理)  実習(使い方、納め方)  実習(網揚げ、網起こし、ロープワーク)  実習(包丁磨ぎ、包丁使用法)
北海道漁業の現状 ( 2.5 時間)	我が国最大の水産基地北海道の現状について学ぶ。	北海道漁業の現状  漁師になるには	我が国最大の水産基地北海道の現状について学ぶ。  今後、地域に受けいられる漁業者となるための行程や心構えについて学ぶ。	講義  講義
意見交換 ( 3.0 時間)	第一線で活躍している漁業者等を助言者として迎え意見交換を通じて漁業者としての心構え等を学ぶ。	漁師に求められているもの	第一線で活躍している漁業者等を助言者として迎え意見交換を通じて漁業者としての心構え等を学ぶ。	講義
その他 ( 0.5 時間)		入所・修了式		
計 28.5 時間				

※ 区分欄( )は、研修時間をあらわす。

## 平成30年度 研修計画表

区分	研修の種類	研修期間	研修日数	定員	対象者等
総合研修	総合コース (総合研修課程)	5月 7日～10月29日 〔前期 5/7 ～ 7/20〕 〔7/21～8/14は自家研修〕 〔後期 8/15～10/29〕	112日間	50名	18歳以上の 漁業後継者及び 漁業を志す者
	基礎コース (漁業者入門研修課程)	7月23日～ 7月27日	5日間	10名	原則、20歳以上40歳以下の漁業を志す者
つくり育てる漁業技術研修	漁村セミナー ・海洋環境 ・資源管理 ・経営管理 ・加工利用 ・漁業士、青年部活動 ・女性活動 栽培漁業 ・魚貝藻類増養殖 その他	随時開催	希望日数	10名以上	漁業就業者 漁協職員 市町村職員等 青年部・女性部・ 漁業部会等
漁業資格取得促進研修	一級小型船舶操縦士 (第1種及び第2種)	11月4日～11月16日	学科 6日間 実技 2日間	30名	漁業就業者
		平成31年 2月 3日～ 2月15日	学科 6日間 実技 2日間	30名	
	一級小型船舶操縦士 (第1種)	平成31年 3月 3日～ 3月15日	学科 6日間 実技 2日間	30名	
		第二級海上特殊無線 技士	12月12日～12月14日	3日間	
	平成31年 1月23日～ 1月25日		3日間	30名	
	潜水土(学科のみ)	平成31年 2月 2日～ 2月 7日	6日間	10名	

- 注 1 総合研修の研修日数は、受講生当たりの実研修日数です。(自家研修期間を除く。)
- 2 総合研修の期間及び日数は、都合により変更する場合があります。
- 3 つくり育てる漁業技術研修は、要望に応じて、随時計画を策定のうえ実施します。
- 4 漁業就業促進研修で実施する一級小型船舶操縦士資格取得研修において、実技講習及び実技試験が免除となる第2種に参加する受講者は、別途、乗船履歴の確認を受けていただく必要があります。
- 5 漁業就業促進研修の受講者の募集は、概ね、研修開始日の2ヵ月前に開始し、締め切りをその1ヵ月前として取り進めます。なお、詳細は、研修所に確認してください。
- 6 総合研修以外の研修は、参加者の応募の状況等により、実施時期等を変更又は中止することがあります。